

第一回 令和 4 年 5 月 19 日

- (1) 白井市地域自立支援協議会について(年間予定・要綱改正)
- (2) 令和 4 年度部会の活動について
- (3) 地域生活支援拠点の令和 3 年度活動報告及び令和 4 年度計画について
- (4) その他

第二回 令和 4 年 9 月 29 日(書面)

- (1) 白井市障害者計画等の令和 3 年度進行管理について
- (2) 差別解消法改正 事業者による合理的配慮の提供の義務化

障がい者災害対応研修 in 白井 令和 5 年 1 月 16 日(ハイブリッド形式)

令和 4 年度 要旨

【令和 4 年度の部会活動について】

生活支援部会は、昨年度から困難事例を持ち回りで実施している。継続。基幹相談の検討をしていきたい。相談支援事業所の連絡会を実施したい。

就労部会では、情報交換を積極的に行い、協議していく。相談会等の実施。
→年度当初部会長が報告した予定は、資料 1-1~1-3 の通り取り組んだ。

【障がい者災害対応研修 in 白井】

- 参加者:会場参加 21名 オンライン参加 6名
- 講師:館山市社会福祉課障害福祉係 庄司氏、別所氏/地域活動支援センターⅢ 型茶の間トミー 富山氏/館山市社会福祉協議会 粕谷氏
- 内容:令和元年台風15号、19号の被災状況について/安否確認について/避難所の開設状況について/要配慮者(災害時要援護者)について・一般避難所での、要配慮者の様子/協定避難所での要配慮者の様子/災害支援を受けるために/災害ボランティアセンターの閉所後の動き/実際の支援事例について

●まとめ

- 災害を自身のこと・地域のこととしてとらえる。
- 災害が発生する可能性を考え事前に準備する。
- 災害時の共助は、普段の関係構築(地域)が大切
「地域中心」の重要性。市職員、支援者も被災し、すぐに動けるとは限らない。「避難」を考えると、近所との関係構築が大切。平時の関係性で、自然と共助が生まれる。
- 災害のあと、日が経つとどうしても忘れてしまう、職員も異動があり、意識が薄れてしまう。いかに忘れずにいるかが重要。
- 安否確認。停電によりデータが見られず、紙媒体で残しておく必要があった。データ管理の重要性を感じた。誰が誰を確認するかを明確にすることで、抜けがない安否確認ができると思われる。

●白井市より障がい者の避難・支援フローを検討していることについて説明

○安否確認の情報共有について

災害時の安否確認について、いずれ市と事業所で情報共有の仕組みをつくりたい。地域（自主防災組織など）に名簿が配布されていない方が優先と考えている。

○医ケア児者以外の避難について

現時点での避難の流れは、まず一般の避難所を想定。福祉避難所は、市内福祉センター、協定先の障害福祉サービス事業所2か所あるが、必要に応じて開設する。一般避難所での避難が困難な方に、二次的に避難していただく。

○医ケア児者の避難について

停電の状況により、自宅、災害準備ノートに記載した避難先へ避難、市役所へ避難等を選択。